

みなさまからの声 (2011年5月19日)

○稲盛会長は航空法をお読みでしょうか？

「利益なくして安全なし」は「安全なくして利益なし」の間違いではないか？

日経ビジネス 5月16日号に稲盛会長のインタビュー記事が載っています。

「利益なくして安全なし」を強調し、社員の意識を「安全第一」より「採算性第一」に変えようという経営哲学のようです。

日本航空の再建で「安全が大前提」を求められているのは、一般営利会社と異なり公共交通機関として航空法に基づいて運航が求められているからです。

航空法は第一条で「輸送の安全の確保」による「公共の福祉の増進」を目的とした法律であることを明記しています。

私は退職後もJALカードで家族ともどもJAL便を利用しています。利用者の立場から言わせていただければ「安全な航空会社の便に乗りたい。」「最大のサービスは安全」というのが一番の要望です。

安全第一はJALの存立基盤です、安全な航空会社だと評価されてこそ利益を生み出します。一般営利企業で利益優先という経営哲学がまかりとおっても、公共交通機関では安全が最大のサービスであることを法律で求められているのです。

稲盛会長は航空法をお読みになったことがあるのでしょうか？

平成18年にスカイマークが安全トラブルを多発し旅客離れが深刻になり、航空局の特別監査を受けるなか国会で追及されたことがあります。

「航空法第一条は何と延べていますか？」と問われ、スカイマークの社長は「申しわけございませんが、業界の経験が浅いもので、お答えできません。」と答えて利益主義一辺倒を批判されました。

JALでは3月に航空局の安全監査が入り、現在も経過観察中です。安全トラブルが職場を問わず多発しているとも聞いています。

先日、JR西日本の福知山線の大事故（乗客106名、運転手1名が死亡）から6年経って、事故の背景がマスコミで報道されていました。

事業目標の第一に「稼ぐ」を掲げていたこと。危険を承知しながらATS（過速度抑制装置）設置の安全投資を先送りするなど利益優先の経営方針が批判されています。

経営上、採算性と安全性のバランスをどう取るのか難しいでしょうが、採算性が安全性より優先されるような経営哲学がまかりとおれば、JALの再建は危ういと危惧するのは私だけでしょうか？